

# AEDの使用手順



① AEDを傷病者の頭の近くに置き、ケースから本体を取り出します。

② 電源ボタンを押します。

※ふたを開けると自動的に電源が入る機種もあります。以降は音声メッセージに従って操作します。



③ 電極パッドを体に貼ります。電極パッドに書かれているイラストの位置にしっかりと肌に密着させて貼り付けます。この間も胸骨圧迫を続けます。

## ポイント

### 【貼り付け時の注意点】

- ・傷病者の胸が濡れている → 「拭く」
- ・胸に貼り薬がある → 「はがして肌に残った薬剤は拭き取る」
- ・ペースメーカーなどの埋め込みがある → 「避けて貼る」

※機種によっては、電極パッドから延びているケーブルの差込み(コネクタ)をAED本体の差込み口に挿入する必要があります。



④ AEDの指示に従い「ショックが必要です」と判断されたら「ショックします。みんな離れて」と注意を促します。誰も傷病者に触れていないことを確認し、ショックボタン(点滅)を押します。

電気ショックが完了すると「直ちに胸骨圧迫を開始して下さい」などの音声メッセージが流れますので、これに従って直ちに胸骨圧迫を再開します。「ショックは不要です」のメッセージが流れた場合も同様です。

## ポイント

胸骨圧迫の中断時間はできるだけ短くすることが大切です。

2分間おきにAEDは自動的に解析を行います。以後は、救急隊が到着するまで心肺蘇生を継続しAEDの指示に従ってください。



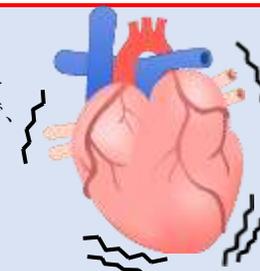
## 【AED取扱い時の注意点】

- ☆AEDは全年齢に使用できます。
- ☆未就学児(おおよそ6歳まで)には小児用パッドを使用するか小児用モードに切り替えて使用しましょう。(小児用が無ければ成人用で代用します)



## 心室細動 とは

心臓の筋肉が不規則にブルブルとふるえ、全身に血液を送り出すというポンプの役割を心臓が果たせない状態で、そのまま放置すると死に至ります。



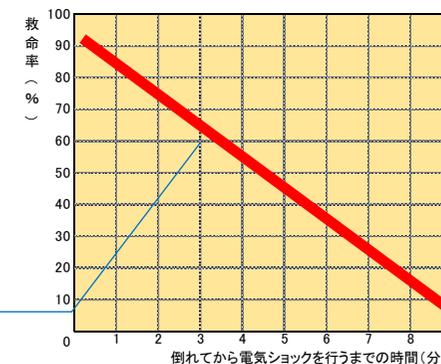
## AED(自動体外式除細動器)とは

心室細動の時に電気ショックを与えてけいれんを取り除き、正常な状態に戻す機械です。

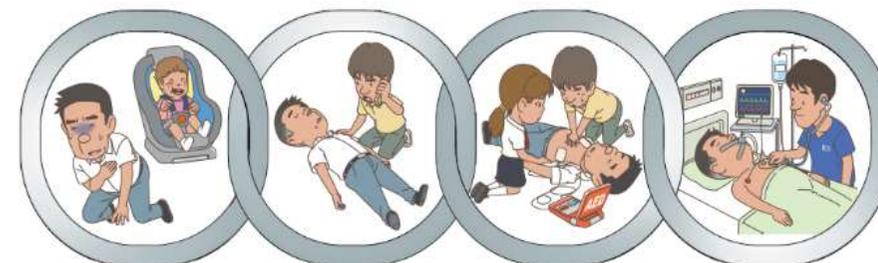
## 心室細動と救命率



蘇生のチャンスは1分ごとに7~10%低下するといわれています。



## 救命の連鎖



心停止の予防

早期認識と通報

一次救命処置

二次救命処置と心拍再開後の集中治療

「救命の連鎖」は【心停止の予防】【心停止の早期認識と通報】【一次救命処置】【二次救命処置と心拍再開後の集中治療】の4つの輪で成り立っており、この4つの輪が途切れることなく素早くつながる事で救命効果が高まります。

特に「救命の連鎖」の最初の3つの輪が現場に居合わせた人により積極的に行われる事で、生存率や社会復帰率が高まります。

鯖江・丹生消防組合 消防本部・消防署 TEL (0778) 54-0119

ホームページ <http://www.fd-sabaenyu.jp/> (ホームページで、この資料を閲覧できます)

消防署では普通救命定期講習を毎月第2土曜日に実施しています。

※このリーフレットはJRC日本蘇生協議会ガイドライン2015に基づいて作成しています。

# 心 肺 蘇 生 法

## ① 安全を確認する

誰かが突然倒れるところを目撃したり、倒れているところを発見した場合は、まず**周囲の状況が安全かどうかを確認**します。自分自身の安全を確保することは傷病者を助けることよりも優先されます。



## ② 反応の確認

まずは、耳もとで「〇〇さん、大丈夫ですか？」と声をかけながら肩を軽くたたきます。呼びかけに反応がなければ「**反応なし**」と判断します。反応があれば、傷病者の訴えを聞き、必要な応急手当をしましょう。

### ポイント

※突然の心停止が起こった直後には引きつるような動き（けいれん）が起こることもありますが、この場合は呼びかけに反応しているわけではないので、「**反応なし**」と判断してください。



## ③ 助けを呼ぶ

②で反応がなければ、大きな声で助けを求めます。協力者が来たら、「あなたは**119番へ通報してください**」「あなたは**AEDを持ってきてください**」と指示します。

### ポイント

協力者が誰もいなく1人の場合は、次に移る前に、自分で**119番通報**をしましょう。また、すぐ近くに**AEDがある**ことがわかっている場合は、自分自身で**AEDを取りに行ってください**。



## ④ 呼吸の確認

傷病者のそばに座り、**10秒以内**で傷病者の胸や腹部の上がり下がりを見て、**普段どおりの呼吸**をしているか判断します。

### ポイント

次のいずれかの場合は「**普段どおりの呼吸がない**」と判断し⑤に進みます。

- ・胸や腹部の動きが無い場合
- ・約10秒間確認しても呼吸の状態がよくわからない場合
- ・しゃくりあげるような、途切れ途切れに起きる呼吸（**死戦期呼吸**）をしている場合

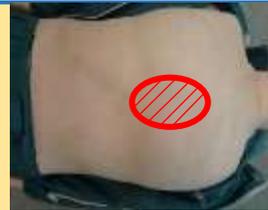


## ⑤ 胸骨圧迫

胸の真ん中（**胸骨の下半分**）に重ねた手の付け根部分を置きます。肘をまっすぐに伸ばし、体重をかけ、**約5cm沈み込む**ように強く、速く**圧迫**を繰り返します。

### ポイント

1分間に**100回～120回**のリズムで可能な限り**中断せず絶え間なく圧迫**します。こわごわと圧迫したのでは深さが足りずに十分な効果が得られないので、しっかりと圧迫することが大切です。また、圧迫と圧迫の間（圧迫を緩める時）は**胸がしっかり戻る**ようにしましょう。



## ⑥ 人工呼吸

※**出血や嘔吐物がある**場合には人工呼吸は省略しても結構です。

30回の胸骨圧迫に続いて、**口対口人工呼吸**により息を吹き込みます。

### 気道確保（頭部後屈あご先挙上法）

片手を傷病者の額に当て、もう片方の手の人差指と中指で下あごの先を軽く持ち上げ、頭を後ろにそらせましょう。

### 人工呼吸

気道を確保したまま、額に当てた手の親指と人差指で傷病者の**鼻をつまみ**傷病者の口を覆い**約1秒かけて吹きこみます**。傷病者の胸が上がるのを見て確認します。胸がうまく上がらない場合でも吹きこみは2回までとし、すぐに胸骨圧迫に進みます。人工呼吸による胸骨圧迫の**中断時間は出来るだけ短く**しましょう。



## ⑦ 心肺蘇生の継続

**胸骨圧迫30回と人工呼吸2回の組み合わせ**を救急隊に引き継ぐまで絶え間なく続けます。普段どおりの呼吸や呼びかけに反応し、目的のある仕草が出てきた場合は一旦**中断**しますが、**判断に迷う場合は継続**してください。



### 【傷病者が子供の場合】

乳児とは**12ヶ月未満**をいい、小児は**1～16歳未満**をいいます。

※傷病者が小児の場合は両手でも片手でもかまいません。乳児の場合は左右の乳頭を結ぶ線の少し足側を2本指で圧迫しましょう。圧迫の深さは体の厚みの約**1/3沈む程度**です。

